

## 新型コロナウイルスパンデミックの定期健診結果への影響調査 VOL. 2(検査値等)

一般財団法人近畿健康管理センター

### 【背景・目的】

新型コロナウイルスパンデミック下、2020年以降、感染防止のためのフィジカル・ディスタンス、外出制限・自粛、経済活動の制限は人々の働き方や生活に大きな影響を与えている。そこで、働き方や生活の大きな変化による、健診データへの影響の有無を調査・可視化し、健康課題の有無をあきらかにすることを目的とした。

### 【方法】

一般財団法人近畿健康管理センター(以下、KKC)で2018年度、2019年度、2020年度にわたって連続受診された健診受診者の匿名化された検査データ等を調査し・年度ごとの比較を行った。食後受診および月経または妊娠中の受診者データは除外した。※倫理的配慮:本研究は、KKCにおける倫理委員会の承認を得て実施した。(承認番号2021-002)

### 【結果・考察】

2020年に男女とも収縮期血圧140以上受診者割合に上昇がみられ、新型コロナウイルスパンデミックによる生活環境変化と収縮期血圧上昇が関連する可能性が示唆された。男性は、2020年に肝機能検査高値者割合上昇がみられた。新型コロナウイルスパンデミックによる外出制限や自粛・経済活動制限によって飲酒量増加等の影響を受けた男性受診割合が多かったことが推測される。BMI、LDL-ch、中性脂肪高値者割合上昇は2019年度にもみられたことから加齢等による検査値等の上昇がうかがわれた。収縮期高血圧および、男性の肝機能検査高値受診者の調査をすすめ、Withコロナ環境での効果的な保健指導等の検討・実践につないでいきたい。

第61回 近畿産業衛生学会(2021年10月)にて発表